

# 新たなメニューで売上アップを 中央会の取引力強化推進事業補助金の取り組み①

● 企業組合ふるさと旬菜森樹

TOPICS

北杜市小淵沢町でレストランを運営している企業組合ふるさと旬菜森樹(田中洋子理事長 組合員11名)は中央会の取引力強化推進事業を活用し、新たなメニューの導入に取り組んだ。

組合で運営しているレストランは、小淵沢町が都市と農村との交流促進を図ることを目的に設置した

温泉・宿泊施設「スパティオ小淵沢」内に平成8年開業、地元野菜の活用と女性による起業モデルとして全国から着目された。開店から22年が



芦澤先生から盛り付けの指導を受ける

経過し、近隣の観光開発が進み競合する飲食店が増え売り上げが落ちてきたことから、中央会からの補助事業を一部活用し、メニューの見直しに取り組むこととなった。

メニューの見直しには、KANAEフードビジネス研究所の芦澤香苗先生から指導を受け、「健美食—地元の新鮮な食材を使った創作料理を健康で美しく元気で明るい森樹の女性が作ります」をブランドコンセプトに、新メニュー13種類を取り入れるとともに既存メニューも調理方法や盛り付けのリニューアルを行った。また、メニューブックもデザインを一新するとともに、ページを増やしほとんどのメニューに写真と説明をつけ、お客様に料理に使っている地元食材の効能や調理の特徴が判り易く伝えられるような工夫も行った。

花輪千世子専務理事は「メニューの見直しに

合わせてメニューブックのデザインも新しくしたことで、リピーターのお客様からは料理の種類が増えた、新鮮みが増し選ぶ楽しみにつながったとのこと褒めのことばをいただいた。また、新たなお客様からは旬の地元野菜を楽しめ味もよいと好評。これからも組合員でアイデアを出し合い、地元の食材を活かしたメニューの開発や見直しを続けていくことでお客様に喜ばれるレストラン運営を行っていききたい。」とメニュー見直しの取り組み成果を実感していた。



デザインを一新したメニューブック(右)